CHAPTER 6

トラブルシューティング トレース設定値の設定

［Troubleshooting Trace Settings］ウィンドウでは、トラブルシューティング トレースの事前設定値を設定する対象の Cisco Unified Presence のサービスを選択できます。この章では、特定のサービスのトラブルシューティング トレース設定値を設定またはリセットする方法について説明します。

（注） 長時間にわたってトラブルシューティング トレースを有効にすると、トレース ファイルのサイズが増大し、サービスのパフォーマンスに影響を与える可能性があります。

手順

ステップ 1 ［**Trace**］>［**Troubleshooting Trace Settings**］の順に選択します。

ステップ 2 ［Server］ドロップダウン リスト ボックスから、トラブルシューティング トレース設定値を設定する対象のサーバを選択し、［**Go**］をクリックします。

（注） サービスのリストが表示されます。Cisco Unified Presence ノードでアクティブにされていないサービスは、N/A と表示されます。

ステップ 3 次のいずれかの操作を実行します。

- ［Server］ドロップダウン リスト ボックスで選択したノードの特定のサービスをチェックするには、［Database and Admin Services］ペイン、［Performance and Monitoring Services］ペイン、［Backup and Restore Services］ペインなどのサービスペインで、そのサービスのチェックボックスをオンにします。

  この操作は、［Server］ドロップダウン リスト ボックスで選択したノードにのみ影響します。
- 次のいずれかのチェックボックスをオンにします。
  - ［**Check All Services**］：［Server］ドロップダウン リスト ボックスで選択した現在のノード上にあるすべてのサービスのチェックボックスを自動的にオンにします。
  - ［**Check Selected Services on All Nodes**］：［TroubleshootingTrace Setting］ウィンドウで特定のサービスのチェックボックスをオンにします。この設定は、そのサービスがアクティブになっているクラスタ内のすべてのノードに適用されます。

– ［**Check All Services on All Nodes**］：クラスタ内のすべてのノードのすべてのサービスのチェックボックスを自動的にオンにします。このチェックボックスをオンにすると、［Check All Services］チェックボックスと［Check Selected Services on All Nodes］チェックボックスが自動的にオンになります。

ステップ 4　［**Save**］ボタンをクリックします。

ステップ 5　1 つ以上のサービスに対してトラブルシューティング トレースを設定した後は、元のトレース設定値を復元できます。元のトレース設定値を復元するには、次のいずれかのボタンをクリックします。

- ［**Reset Troubleshooting Traces**］：［Server］ドロップダウン リスト ボックスで選択したノード上のサービスに元のトレース設定値を復元し、クリック可能なアイコンとして表示します。
- ［**Reset Troubleshooting Traces On All Nodes**］：クラスタ内のすべてのノード上のサービスに元のトレース設定値を復元します。

［Reset］ボタンをクリックすると、ウィンドウが更新され、［Service］チェックボックスがオフの状態で表示されます。

（注）　［Reset Troubleshooting Traces］ボタンは、1 つ以上のサービスに対してトラブルシューティング トレースを設定した場合にのみ表示されます。

追加情報

P.6-2 の「関連項目」を参照してください。

関連項目

- トレースの設定（P.5-1）